

六月二十二日。タイ・バンコクを中心街にあるコンベンションホールには、タイ王国をイメーじさせるゾウのディスプレイが施され、アジア各国の国旗が並び、国際会議を歓迎する雰囲気でした。国連のアジア防災閣僚級会議に招かれ、福島の状態を報告してきました。写真。ほんの二週間ほどで英文のスピーチ原稿を作成し、活動紹介の動画に英語訳をつけ、大慌てで準備をしました。

国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議で、第一回(一九九四年、横浜)、第二回(二〇〇五年、神戸)会議と

## 東北復興日記

99



いわきおてんとSUN  
企業組合理事長  
吉田恵美子さん

# 防災の教訓 世界に発信

も、日本で開催されました。第二回会議では、〇五年から一五年までの国際的な防災の取り組み指針である「兵庫行動枠組」が策定されました。第二回会議は一五年三月に仙台で開催されます。

東日本大震災から三年以上が経過し、世界の趨勢としては既に過去の災害という認識です。しかしまだ十四万人が避難生活を送り地域社会に暗い影を落としていること。地震や津波といった自然

災害だけではなく、原発事故の人的災害、技術的災害に備える必要があること。そして、そうした状況の中にあっても未来を築こうとする取り組みが市民の手で行われていることを報告しました。

「来年の仙台での会議の際には福島にも訪れて、その現実を(自身の目で耳で知ってください」と締めくくりました。インド、バン格拉デシユなどアジア各国の市民グループの女性リーダーらとの出会いもありました。



「来年の仙台での会議の際には福島にも訪れて、その現実を(自身の目で耳で知ってください」と締めくくりました。インド、バン格拉デシユなどアジア各国の市民グループの女性リーダーらとの出会いもありました。

「この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。」

今後は気候変動に伴い

災害も激甚化していくと警告されています。貧困層、小さい子供をかかえる女性や高齢者など、社会的弱者層の防災は、私たちアジアの女性リーダーが手を取り合って経験を共有しつつ備えていく必要があると思います。来春、福島にアジアの女性リーダーを招待し、語り合い、福島の経験が、将来に向けた世界的な叡智になる日が来ることを望まずにはいられません。